

特別展「もしも猫展（仮）」開催概要（案）

1 名称：特別展「もしも猫展（仮）」

2 内容：

「もしも、うちの猫が人のように話したら？」そんな想像をしたことはありませんか。

人間以外の何かを人間になぞらえることを擬人化とよびます。大の猫好きとして知られる浮世絵師の歌川国芳は、天保12年（1841）頃から猫を擬人化したり、役者を猫にしたりした作品を次々と発表していきます。

令和元年度の特別展「いつだって猫展」では、猫と人との関わりや江戸時代後期以降に起こった猫ブームについて紹介しました。7年後の開催となる本展では、主に国芳の観察眼、画才、そして諧謔精神によって成立した猫の擬人化作品を軸として、江戸時代の擬人化表現の面白さを紹介します。

「もしも、国芳がいなかったら？」出会うことのなかった多彩な擬人化作品の魅力をお楽しみください。

なお、本展は巡回展です。これまでに名古屋、京都、新潟、広島で開催され、仙台が最終会場です。

3 主催：仙台市博物館、ミヤギテレビ

4 協力：名古屋市博物館

5 後援（予定）：在仙マスコミ各社（予定）

6 会期：令和8年4月17日（金）～6月7日（日） 開催日数 45日

※休館日 毎週月曜日（5/4を除く）、5/7

7 会場：テーマ展示室Ⅰ、企画展示室、コレクション展示室Ⅱ

8 観覧料（予定）：一般1,500円（前売1,300円） 高校・大学生1,000円 小学・中学生800円

※10名以上の団体は、当日料金より各100円引。

7 展示構成：

第1章 くらべてみる

第2章 擬人化の効能

第3章 おこまものがたり

第4章 人、猫になる

特集 おしゃべりな顔、百面相

第5章 国芳のまなざし

終章 もしも…。

8 主な展示資料：

・流行猫の曲鞠 歌川国芳画 天保12年（1841） 大判錦絵1枚 個人蔵

・鶏鼠物語絵巻貼付屏風 朝倉重賢筆 江戸時代前期（17世紀中頃） 名古屋市博物館蔵

・化け猫草子絵巻 江戸時代中期（17世紀後半～18世紀前半） 個人蔵

・朧月猫の草紙 山東京山作・歌川国芳画 天保13年～嘉永2年（1842～1849）刊 個人蔵

・しん板猫のよめ入り 歌川芳藤画 明治16年（1883） 大判錦絵1枚 個人蔵

- ・名所江戸百景 浅草田甫酉の町詣 歌川広重画 安政4年(1857) 大判錦絵1枚 個人蔵
- ・流行猫の戯 道行 猫柳姪月影 歌川国芳画 弘化4年(1847)頃 大判錦絵1枚 個人蔵
- ・『枕辺深閨梅』下巻口絵 歌川国芳画 天保9年(1838)序 個人蔵

9 関連イベント等：

記念講演会、まちなか博物館講座、工作イベント、体験イベント、スタンプラリー、ミュージアムセミナー、友の会広報セミナー、プレイミュージアムイベントなど



名古屋市博物館編『もしも猫展』図録（令和4年）より

左：流行猫の曲鞠 歌川国芳 個人蔵

右上：朧月猫の草紙（第2編） 山東京山作・歌川国芳画
個人蔵